

事例1

株式会社メイエレクト

より便利な「くるりんばす」をめざして

産学連携 内容

日進市で運行されているコミュニティバス「くるりんばす」を対象とし、今後のバスのあり方について検討を進めています。利用者における往復の利用実態や乗換えの実態などを定量的に把握し、改善点を探ります。また、利用者の利便性を高める新型バスロケーションシステムの研究・開発も行っています。

研究・開発内容

「くるりんばす」は子供からお年寄りまで、幅広い年代の方が利用します。バスの特性上、本数が少ない上に渋滞に巻き込まれて到着時間が前後するなど、避けられない問題が発生していました。そこでバスが今どこを走っているのか、リアルタイムで把握できるようなバスロケーションシステムの研究・開発を企業と大学が共同で行っています。現在、情報通信技術を活用してバスの現在位置を把握できるような仕組みを試行中です。

新型のバスロケーションシステムとは？

バスから送信される情報を最寄のバス停や電柱に設置したセンサが受信し、さらに最寄のセンサに無線通信するという最新のセンサネットワーク技術を利用しており、従来システムより低運用コストで実現できます。

教員紹介



名城大学 理工学部
社会基盤デザイン工学科 都市・交通計画系
松本 幸正 教授

行政・企業と連携し、大学が持つ知識・技術を活用して便利で快適な人々の移動の実現を目指します。



名城大学 情報工学科
ユビキタス コンピューティング研究室
鈴木 秀和 助教

より便利なネットワークを実現するため、プロトコル・システム・アプリと幅広く研究開発をしています。

今後の目標

利用したくても
利用できない人に
バスを使ってもらおう

くるりんばすの利用者は年々増え続けており、年間50万人を突破しました。今後は、現在くるりんばすを利用できない高齢者や障害者の方々にどうやって快適に利用してもらおうか研究を進めていきます。

本研究で発明された技術を、株式会社メイエレクトと共同で特許出願しています